第13課　イスラエルの指導者たち

【暗唱聖句】

「民は皆、帰って、食べたり飲んだりし、備えのない者と分かち合い、大いに喜び祝った。教えられたことを理解したからである」ネヘミヤ8:12

【日曜日・指導者の影響力】

指導的な立場にあるクリスチャンは、聖書の原則と一致させてリーダーとして役割を果たしていくことが大切ですが、聖書の中には良い指導者もいれば、悪い指導者も登場します。

・レハブアム…「苛酷な労働、重い軛を軽くしてください」との民の願いに対して、長老たちと若者たちの両方と相談します。その結果、レハブアムは民に優しく接するべきだという長老たちの声よりも、厳しくして王の威厳を保つことを進言した若者たちの意見を選びます。その結果、民たちは王を離れていきます。レハブアムはリーダーシップが欠如していました。他の人と相談する姿勢は良いのですが、正しい選択をすることができず、民ではなく自分にとって魅力的な声を優先してしまいました。

・ペテロ…ペテロはエルサレム会議において、異邦人たちにどう指導するべきかについて協議した時、福音と聖霊の導きを優先しました。

・ヨシア…契約の書が発見された後、ヨシアはそこに書かれたる通りのことを即座に実行に移します。つまり、聖書の御言葉を何よりも優先したということです。その結果、町から偶像が一掃されました。

・デボラ…デボラは女預言であり、士師の一人として圧倒的な存在感を放っています。バラクが、「デボラが戦いに一緒に来てくれるなら自分も行くし、一緒に来てくれないのなら行かない」と言うほどでした。神の言葉への絶対的確信をもって、的確にすべきことや神様から言葉を伝え、また自らも戦地に足を運ぶ行動力のあるリーダーでもありました。

・アハブ…サマリアの王アハブは異邦人の妻イゼベルに操られ、リーダーとしての責任を果たすことができませんでした。その結果、民は苦しめられ、偶像が町のいたるところに置かれるようになっていきました。

【月曜日・主が悪とみなされること】

「彼は主の目に悪とされることを行って、ヤロブアムの道を歩み、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪を繰り返した」列王記上15:34

イスラエルの王が主の目に悪とされることを行うことによって、イスラエル全体に罪を犯させる結果となりました。これらの王が在任中、国は争いが絶えなかったと書かれてあります。

「その年の大祭司であったカイアファが言った。「一人の人間（イエス）が民の代わりに死に、国民全体が滅びないで済む方が、あなたがたに好都合だとは考えないのか。」…この日から、彼らはイエスを殺そうとたくらんだ」ヨハネ11:49～53

大祭司カイアファは、いみじくもイエス様の民の代わりに死ぬことで、国民全体を滅びから免れると預言的に語りました。しかし、この言葉が祭司長たちとファリサイ派の人々にとって、イエス様を殺すという思いを与えるきっかけになったのでした。リーダーの一言が、いとも簡単に人々にマイナスの影響を与えてしまうのです。

【火曜日・勇気と励まし】

「わたしは見回して立ち、貴族や役人やその他の戦闘員に言った。「敵を恐れるな。偉大にして畏るべき主の御名を唱えて、兄弟のため、息子のため、娘のため、妻のため、家のために戦え。」ネヘミヤ4:8

ネヘミヤはユダの人々を怯えさせようとする敵に対して、民たちに立ち向かうように鼓舞しました。彼らは、一方の手で城壁建設のための作業を行い、もう一方の手で敵に備えてヤリを持ったのでした。そして、ネヘミヤはただ単に彼らを鼓舞し励ましただけでなく、自ら先頭になって働きました。神様のための働きは、同時にサタンとの戦いなのです。わたしたちはこのことを忘れてしまいがちです。

時に、神様はわたしたちに静まって神様がなさる働きを見るようにと言われることがあります。しかし同時に私たち自身が与えられた賜物を通して私たちがなすべき働きもあります。その際に、御言葉によって励まされ、勇気をもってその業をなしていきたいものです。

【水曜日・目的と熱意】

「エズラは主の律法を研究して実行し、イスラエルに掟と法を教えることに専念した」エズラ７: 10

エズラもネヘミヤも、主のみ旨を成し遂げていくことに情熱を傾けました。エルサレムを再建するというビジョンは神様から来たものであり、その目標を達成するために彼らは全力を注ぎました。彼らが目指したものは、単にエルサレムを再建するだけでなく、ユダの人々が霊的にリバイバルすることでした。霊的リバイバルのために、御言葉に立ち帰ることと、神様のビジョンを達成していくことが大きな力となっていったのでした。

また神様は、エジプト脱出ではモーセをお選びになったように、エルサレムを再建するにあたって、霊的な指導者であるエズラと行政的な指導者であるネヘミヤの2人を選び、お立てになりました。同様に、現在でも神様にはご計画があります。それを成し遂げていくことは、わたしたちのビジョンでもあります。そのために神様は人材を選ばれます。御言葉を学び、御言葉を生き、そして行動を起こすべきときには、勇気をもって行動を起こすことが大切です。

【木曜日・謙遜と忍耐】

「わたしは旅の間敵から守ってもらうために、歩兵や騎兵を王に求めることを恥とした」エズラ8:22

エズラは神様が常に守っていてくださるとの確信がありました。日々の生活ですらそうなのですから、ましてや神様の働きをするのに、神様が守って下さらないわけがないのです。

「わたしはユダの地の長官に任命されたが、その日から第三十二年までの十二年間、わたしも兄弟たちも長官の給与を一度も受け取らなかった」ネヘミヤ5:14

ネヘミヤはユダの人々が無償で奉仕するのに、自分だけが給与をもらうわけにはいかないと、それを固辞しました。ネヘミヤはリーダーとして模範を示したのでした。エズラとネヘミヤという二人のリーダーは、自らに厳しく、そして信仰の人であったのでした。